

川崎哲也*： 福島県下から得られたサクラ属の一新雑種

Tetsuya KAWASAKI*： A new hybrid of *Prunus* from
Fukushima Prefecture

福島県飯坂町茂庭地区の山地にはサクラ類が多く、低所にはカスミザクラ、チョウジザクラが自生しており、カスミザクラの中には栽植したと思われるものもある。やや高所へかけてはエドヒガン、オクチョウジザクラ、オオヤマザクラの自生がみられ、特にオクチョウジザクラは低木林中に非常に多く生じている。このほか栽培されているものとしてはソメイヨシノがあり、ヒガンザクラ、サトザクラの品種タカサゴも植えられている。そしてこれらの各種間の雑種と考えられるものも生じている。ここに記載するモニワザクラはソメイヨシノとチョウジザクラまたはオクチョウジザクラの雑種と考えられるもので、飯坂町茂庭の今野礼三氏が発見されたものである。場所は小さな沢の出口にあたる傾斜地の山中で、川の岸に沿ってソメイヨシノが列植されているが人家からははるかに離れている。付近の山林中にはチョウジザクラ系のものが多く、これと栽植されているソメイヨシノとが自然に交雑したものと考えられる。チョウジザクラと他種との雑種と考えられるものは現在までに数種が報告されており、モニワザクラもその一例である。ただオクチョウジザクラは外部形態的な変異の幅が広く、多数の個体中にはチョウジザクラにごく近い型のものもあり、上記地区には両種とも多くみられるから、そのどちらとソメイヨシノが交雑したものかは断定し難い。

枝の状態は、太さ色ともにソメイヨシノにほぼ等しく、チョウジ系の細い感じは全然ない。若葉では白色の毛が密生し、毛の性質はチョウジ系そのものである。また若葉が幾分下向きに垂れ下がる傾向もオクチョウジザクラによくみられるのと同じである。葉柄にも白色の開出毛が密生する。成葉では鋸歯はとがっていてチョウジザクラのように鈍形にならず、またソメイヨシノよりは幅が広い。全体の形はチョウジ系に近いが、それよりは丸味を帯び、また先端はチョウジ系ほど尾状に伸びることはない。大きさはほぼソメイヨシノに同じく、また質は比較的厚く、ソメイヨシノの葉質にほぼ同じである。花卉は大きさはソメイヨシノにほぼ等しいが、周縁に歯牙状の細かいおろつがあるのと、初め純白色であるが後著しく紅紫色を帯びてくるのはオクチョウジザクラによく出る型である。苞の形状はソメイヨシノに近く、特に外面に短毛を密生する点は似ている。芽の鱗片の方は大きさはチョウジ系よりずっと大きくソメイヨシノにほぼ等しいが、ソメイヨシノのそれが外面全体に短毛を密生するのに反し、基部に近いところだけ短毛を有する点が異なる。花梗、小花梗はソメイヨシノに比較して短くその毛はチョウ

* 埼玉県浦和市立大谷場中学校。Ohyaba Lower Secondary School, Urawa, Saitama Pref.

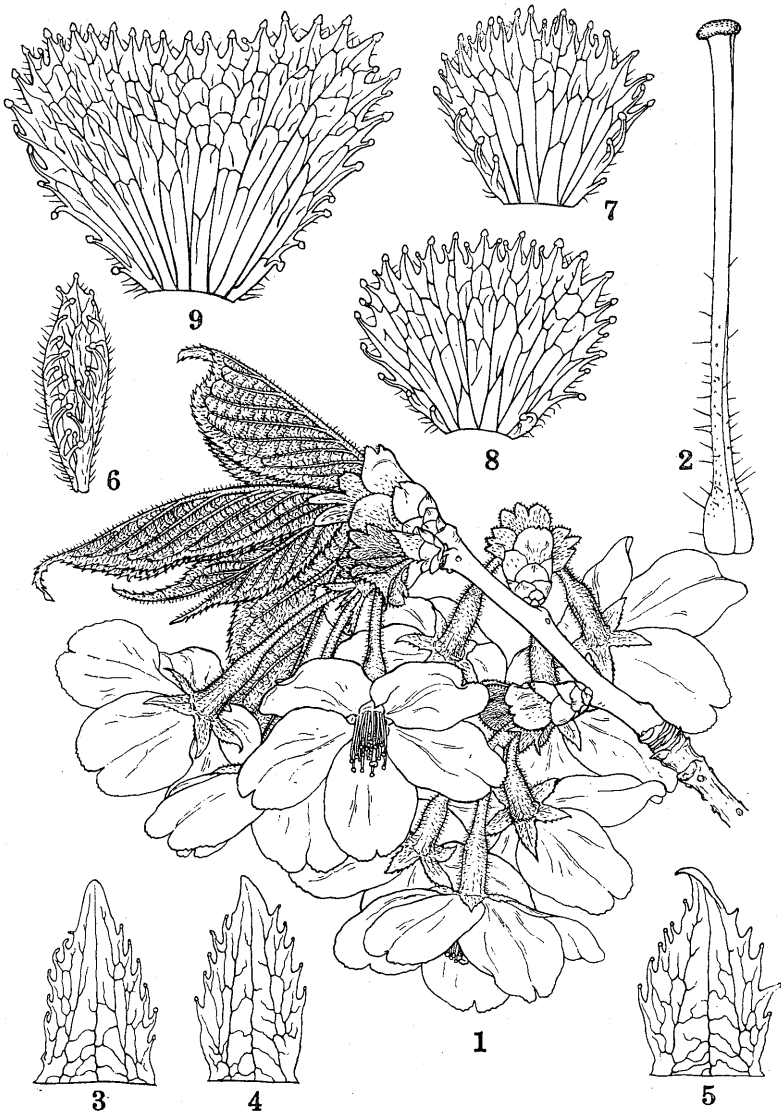


Fig. 1. *Prunus x moniwana* T. Kawasaki. 1. Ramulus florifer. $\times 1$. 2. Pistillum. $\times 5$.
3-5. Calycis lobi. $\times 5$. 6-9. Bractea. $\times 5$.

ジ系の性質をもつ。萼片は形、大きさともにソメイヨシノとほぼ等しいが、鋸齒の先端に小腺体を有する形質はチョウジ系から導入されたものである。オクチョウジザクラにおいては萼片に鋸齒のある個体は少ないから、この点ではむしろチョウジザクラに近いといえる。萼筒はソメイヨシノのように上部がくびれず、円筒形で上端の方へ向かってやや広がる点はオクチョウジザクラに近く、下端部に特に集中して毛が多いのはチョウジザクラによくみられる傾向である。花柱の毛はチョウジザクラのものと同じ性質である。

Prunus (Sargentella) × **moniwana** T. Kawasaki hybr. nov. (*P. yedoensis* × *P. apetala*)

Arborea. Folia juvenilia valde pilosa paullo pendula rubro-purpurascencia margine viridia. Squamae gemmarum floriferarum; interiores 5 oblongo-spathulatae vel spathulato-obovatae circ. 11 mm longae 7 mm latae extus interdum pubescentes intus pilosae viridescentes saepe castaneae vel atro-rubescentes lucidae; exteriores 5 durusae castaneae. Flores subpraecosi 2-4 vulgo 3 corymbosi. Pedunculi circ. 10-15 mm longi viridescentes saepe atrorubro-purpurascentes patente pilosi. Pediceli vulgo circ. 15 mm interdum 20 mm longi atrorubro-purpurascentes patente pilosi. Bractee oblato-flabellatae vulgo apice paulo obcordatae circ. 7 mm longae 7 mm latae extus pubescentes intus superiore sparsim pilosae margine minutim dentato-serrulatae, serrulis apice minutim glandulosi. Calycis tubus cylindratus ad apicem paulo dilatatus circ. 8 mm longus apice circ. 4 mm latus patente pilosus atrorubro-purpurascens interdum viridescens. Calycis lobi 5 ovati vel oblongo-ovati circ. 5 mm longi 3 mm lati apice acuti vel acuminati margine glanduloso-serrulati extus pilosi intense atrorubro-purpurascens interdum viridescens intus glabri primo virides demum intense atrorubro-purpurissimi. Petala 5 late oblonga vel late ovata circ. 19 mm longa 11-12 mm lata apice emarginata margine paulo minute denticulata primo candida demum ex basi intense rubro-purpurascencia. Stamina circ. 35, filamentis circ. 7 mm longis primo candidis demum ex basi rubro-purpurascens. Pistillum circ. 13 mm longum, stylis interiores 1/2 sparsim patente pilosis. Lamina folii adulti obovata vel oblongo-obovata circ. 9-11 cm longa 5-6.5 cm lata apice breviter caudato-acuminata basi rotundata utrinque 10-venosa supra viridis interdum paulo flavescens sine luce pilosa infra valde pilosa viridescens margine duplicato-serrulata, serrulis orbiculato-triangularis apice minute globoso-glandulosi. Petioli circ. 12 mm longi patente pilosi

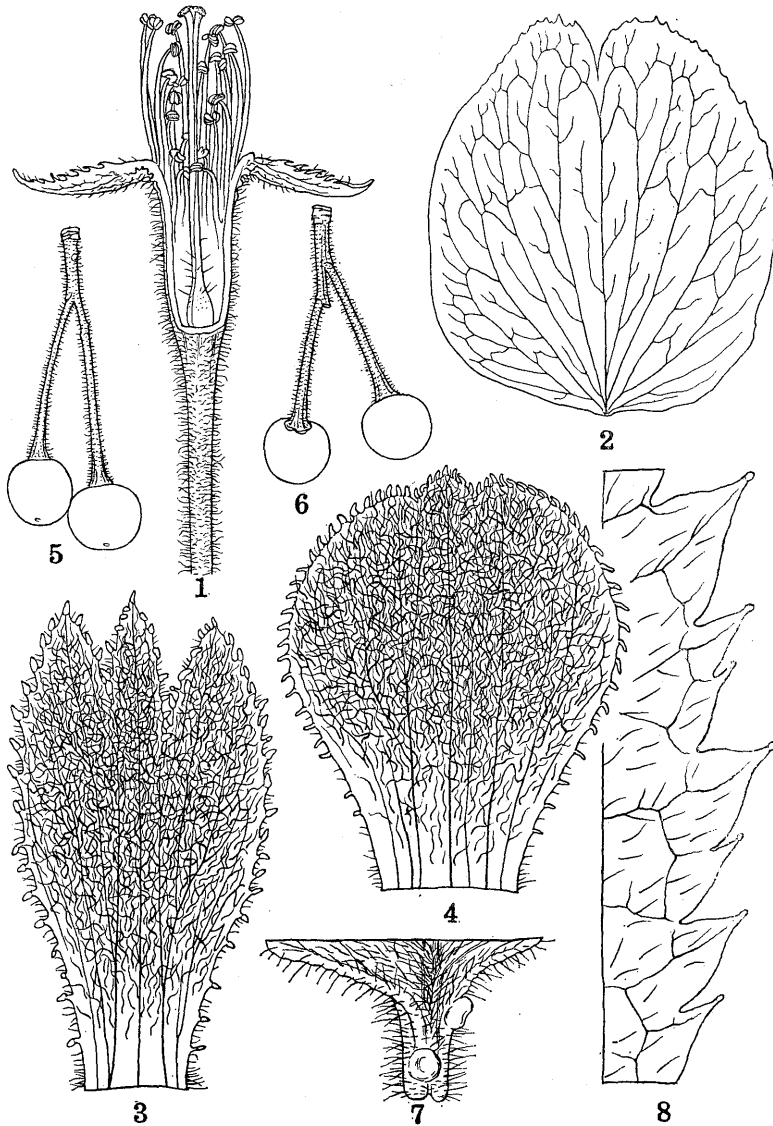


Fig. 2. *Prunus* × *moniwana* T. Kawasaki. 1. Sectio floris sine petalis. × 3. 2. Petalum. × 3. 3-4. Squamae gemmarum floriferarum. × 5. 5-6. Drupae. × 1. 7. Apex petioli cum glandulis. ca × 5. 8. Pars marginis folii adulti. ca × 5.

atropurpureo-fuscescentes apice petioli vel basi laminae 1-vel 2-glandulis instructi. Drupa globasa circ. 8 mm longa 9 mm late nigra lucida.

Nom. Jap. Moniwa-zakura, nom nov.

Hab. in Moniwa, Fukushima Pref. (T. Kawasaki, Apr. 25, 1961-typus in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo).

□ Venkataraman, G. S.: **Vaucheriaceae**, pp. 112, figs. 72 (Indian Council of Agricultural Research, New Delhi, 1961.) 数年前に Randhawa, M. S. の主宰する前記 Council から淡水藻類のモノグラフ刊行の計画が発表され、既に Gyanophyta (Deskachary, T.V., 1959) と Zygnemataceae (Randhawa, M.S., 1959) が出ていて、その 3 冊目として本書が出版された。従来、Vaucheriaceae は Chlorophyta—Siphonales の中におかれ、*Dichotomosiphon*, *Pseudodichotomosiphon*, *Vaucheria*, *Vaucheriopsis* の 4 属が含まれていたが、分類上の位置についてはその後いろいろの提案がなされ、現在では次の 3 つの考え方がある。1) 前記 4 属を含めて Vaucheriaceae として Chlorophyta に入れる従来の方 (本書の著者はこの考え方を採っている)。2) *Dichotomosiphon* は Chlorophyta に残し、*Vaucheria* だけを Chrysochyta—Xanthophyceae に移す (*Pseudodichotomosiphon*, *Vaucheriopsis* の 2 属については言及せず)。3) *Vaucheria* を特別なものとして新しく Vaucheriophyta を設け、その中に入れる。Venkataraman は本書の前半で、従来、分類の基準として考えられている糸状体、生殖器官の構造等の巨視的な諸形質について詳しく述べるとともに、前記 1, 2 (3 はごく最近前川文夫教授 (1960) によって提唱されたもので、これについてはふれていない) の論議の根拠になっているところの游走子及び精子の鞭毛の形質、藻体に含まれている Chlorophyll, Carotinoid 等の色素の性質等に関する諸研究についても、その概要を述べている。後半では現在迄に世界各地から知られている *Dichotomosiphon* 1 種、*Pseudodichotomosiphon* 1 種、*Vaucheria* 54 種、10 変種、9 品種、*Vaucheriopsis* 2 種について記している。記載してある種について検討してみると、各種の扱いについて著者自身の意見はほとんど加えられていない様であるし、更に、synonym については全然ふれていない点はより深い研究を望むものにとっては物足りない感がないでもない。然し、Vaucheriaceae のモノグラフとして著名な Heering (1907, 1921), Brown (1929) のものはいずれも古く、しかも入手し難い今日、この本が発刊されたことは、単に分類学的研究にたずさわる人だけでなく、*Vaucheria* を材料として細胞学的、生理学的研究を進める人々にとっても誠に都合のよい本であると考えられる。\$ 4。

(山岸高旺)